

# フードマイレージから見える食生活の変化

## ねらい

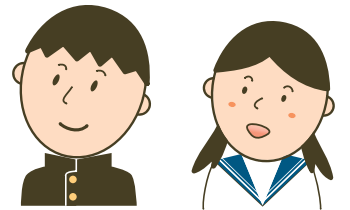
- ✓ 「フードマイレージ買物ゲーム」を通して、フードマイレージの考え方を理解する。
- ✓ 日本の食糧自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その問題点や食料の安定供給について考える。
- ✓ 大阪の気候・風土の特徴と、それに応じて特産品や郷土料理・食文化が育まれてきたことについて理解する。
- ✓ 自分の食生活を見つめ直し、環境に負荷をかけない食生活への工夫を考え、身につける。
- ✓ 自分の生活意識や生活様式を見直し、環境負荷の少ない生活を目指して、環境に調和したライフスタイルの確立が図れるようにする。

高校生向けも  
社会科だけでなく  
家庭科に応用する  
ことができます!!



70年代のカード(左)では  
野菜は国産のものしかないみたい!  
現代では中国産の野菜も  
輸入しているのね。

現代のカード(右)には  
交通手段の選択肢に  
自家用車があるね。



## 授業のすすめかた (50分授業×6コマ)

1  
時間目

夕食の材料を買うという具体的な食生活の場面から、食材を選択する基準には様々な要素の中から産地に関心を持って食材を選択すること、どのような交通手段で買物に行くか意識することなど、「フードマイレージ」の考え方をを用いて、食生活にまつわる消費行動と資源や環境とのかわりを理解させる。

2  
時間目

1970年代と現代の食材リストを比較し、40年間で食生活スタイルがどのように変化したのか理解し、現代の食生活の現状と課題を考察する。

3  
時間目

食生活スタイルの変化の背景にある、フードチェーン(農場から食卓までの農産物や食品の流れ)及びフードシステム(フードチェーンにかかわる生産、加工、流通)、社会の変化を理解する。

4  
時間目

これからの食生活の在り方を考えるヒントになりうる、様々なキーワードを挙げ、事前課題としてその意味や考えかたを調べさせた上で、食と社会、環境、健康、安全とのつながりをマッピングして整理させる。

5・6  
時間目

地域の、季節の食材を用いて、エコクッキングをテーマにした調理実習を行う。これから、自分はどのような食生活を送っていききたいか、消費者として何ができるかを考える。

## 発展編 (2年目の取り組み)

修学旅行(ファームステイ)や近隣農地での農業体験とリンクさせて、農産物の生産・流通・消費に至るプロセスを、実体験を交えて学習する。

- ① 私たちの食を支える日本の農業、大阪府の農業の現状について理解する。
- ② ファームステイ又は学校近くの農地で農業体験をするとともに、農産物の生産者にインタビューを行い、日本の農業の実態と課題を知る。
- ③ インタビューしてきた内容や学んだことをまとめ、授業で発表する。
- ④ これから、自分はどのような食生活を送っていききたいか、消費者として何ができるかを考える。

なるほど!  
こんな発展学習も  
考えられるのか。

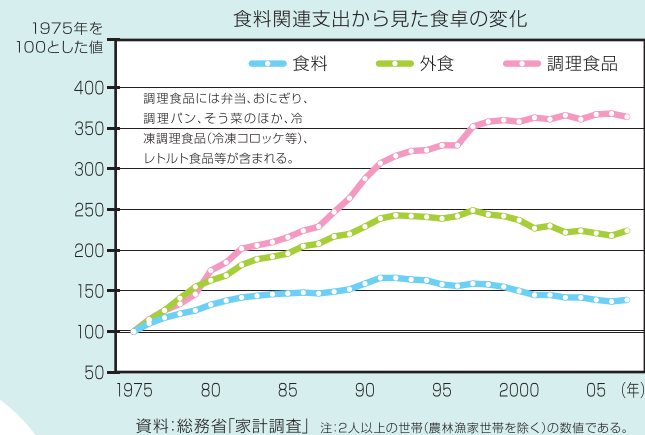


◆食料自給率・フードマイレージの計算の仕方や考え方を理解するために、適宜データや補足説明を行っていく。

◆食・農業・環境・交通・流通・国際交流等、広範囲にわたるテーマが関連する。学習時間に応じて、指導者があらかじめしっかりと狙いを定めておくことが大切である。

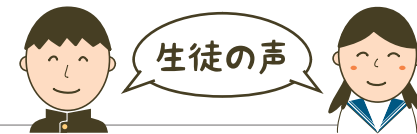
◆食品流通、食育、消費者問題、環境学習、国際理解教育等への展開が可能。特に家庭科からのアプローチとしては、ゲームだけにとどまらない、地域の生活文化(郷土料理、郷土の特産品)や調理実習と関連づけた、より実生活と深く結びついた展開が可能である。

◆特別活動、総合的な学習の時間、各教科(社会科・理科等)と連携した教科横断的な学習活動、地域と連携した取組みなど、生徒の実態及び学校の特色に応じて、「食」について生徒が総合的に学べるように授業を構想した。



1970年代と現代の食生活を比較できる写真とデータ

より効果をあげるツール



## 生徒の声

- 「夕食づくりごっこ」を通して、1970年代と現在では食材や献立が大きく変化していること、物価や販売店舗、交通手段等ライフスタイル全体が変化したことを体験することができた。
- 食べ物を買うこと・食べることが環境問題に結びついていることに気づき、買物をするのは自分のライフスタイルを自分で選択することなのだわかった。